



鳥見の記 散策を楽しもう

第5回 みずき野周辺のタカ類

2018.6



6月のまだちょっと肌寒く感じる朝、久しぶりに早起きしアヤメ咲く守谷市の四季の里公園にサシバやオナガに会えたらと思い出かけてみました。まだ陽が昇って間もない時間にもかかわらず、早朝の「光りとアヤメの彩」を撮ろうと大勢のカメラマンが三脚を構えていました。四季の移ろいや花を愛でるのは、カメラマンだけでなく、早朝の微風を肌で感じ、とりとめのない会話をしながら散歩を楽しむ人達もちらほら見かけました。みずき野でも梅雨から初夏にかけて、垣根のツツジやバラ、アジサイ、クレマチスの花が咲き、散歩する人の目を楽しませてくれます。



6月のある日の早朝 四季の里公園のアオサギとアヤメ

まずは表紙の鳥たちを紹介しましょう

鳥の名前	特徴や観察ポイントなど	鳥の名前	特徴や観察ポイントなど
サシバ	5月初旬頃～ 農業用水の田んぼの電柱の上。一昨年より毎年見られる。	白頭ワシ	アラスカのティナ河の遊覧船上から対岸の杉の大木の頂きに見つけた。
オオルリ	4月初旬～ 筑波山の自然研究路で見られる。	オナガ	5月下旬～ 戸頭団地で早朝から「ギュー～」とか「ギュー～イ」と鳴いている。
コヨシキリ	7月中旬 北海道のベニヤ原生花園で霧の中でさかんにさえずっていた。	カササギ	8月末 アラスカ・アンカレッジでホテルの庭で見かけた。
ニューナイスズメ	7月旬 北イタリア・アオスタのホテルの中庭で子育て中。	カワウ	9月中旬 利根川と銚子の海の河口でヒラメを鵜呑みする。

表紙を飾った写真の中には、みずき野とその周辺では見られない鳥たちもいますが、日頃の生活をリフレッシュさせてくれる「旅」の余禄で見つけた鳥たちで、3丁目のバーダー自慢の野鳥写真の一部です。旅に出かけたら、ちょっと早起きしたり、東の間の休憩時間に、ぜひ日頃の散策で身につけたバード・ウォッチの目力を生かしてみるのも一興かもしれません。

さて、第5回鳥見の記は、みずき野の周辺で見られる猛禽類①のタカを紹介いたします。

トビ

「トビ」の俗称を持ち、「トビがくると輪を描いた」と歌にも歌われる最も普通に見かけるタカで、「ピーヒュロロ」と鳴きます。大きさは59cmで、留鳥。海岸・平地～山地・農耕地・湖沼などに生息しています。

鳥識①猛禽類：
獲物を捕らえるのにその体を進化させた鳥の仲間を指し、主に昼に行動するタカと夜行動するフクロウの仲間に分かれる。タカ目は、タカ科とハヤブサ科の2つに分かれる。



全身が褐色、止っている時の尾は凹形



翼を水平に保ち悠然と大空を舞う



市之代バス停付近の屋敷林



ハシボソカラスとバトル



トビは2月頃求愛活動し、3月頃営巣する。カラスと争っているのをよく目撃されるが、それは生息環境の営巣と餌が似ているためといわれている。

鳥識②トビの語源：
飛行能力が優れている「飛び」からといわれる。洋風の「カイト」はトビの英名「Black Kite」（黒い凧）から名づけられた。

オオタカ

昔からタカ狩りに使われる森のハンター。近年では、都市部へもその繁殖地を拡大している樹間を飛び回るハンターです。大きさ 50cm の留鳥で、平地～山地・農耕地・市街地などに生息します。背中は灰褐色で眉班^{びはん}が白く、腹面は白色で黒い横班があります。ハトやムクドリ等の鳥類やネズミやウサギ等の哺乳類も捕えます。



市之代バス停付近の屋敷林で見かけたオオタカ。この後、ハシボソカラスとバトルをしていた。

サシバ

林縁で水田にいるカエルを狙う渡のタカ。

減反や農耕地開拓で数が減り、環境省のレッドリスト(絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト)に記載され絶滅危惧Ⅱ類となっています。

大きさ 47cm での夏鳥で、平地～山地の林・水田・湿地に生息。9 月頃からは南に向かう「鷹渡り^③」の季節です。



市之代バス停之代付近の電線で昆虫を補食

鳥識③鷹渡り:
繁殖を終えたタカが秋になると群れをなして南方の越冬地へ向かう様。またこの時期にはタカが大集団をなして上昇気流にのり蚊柱のよう^④に渦巻状に帆飛^{ほんしゅう}する「鷹柱」といわれる現象がよく見られる。

鳥識④帆翔:
上昇気流を利用して、羽ばたかずに飛ぶこと。



市之代バス停付近の屋敷林の木の上



農業用水路の水田の電柱

サシバは渡りの時期に大集団で飛び、鷹柱(鳥識③参照)が見られる代表的なタカです。愛知県の伊良湖岬・鹿児島県の佐多岬はその観察スポットとして有名です。

ツミ

市街地でも見られる日本で一番小さいタカ。木の枝に止って待ち伏せして狩りをする「**待ち伏せ型**」のタカです。大きさ 27cm の夏鳥。平地から山地の林に生息します。頭が暗青灰色で腹・胸は白地に淡い橙色、目の周りには黄色いアイリングが目立っています。気が強く巣に近づくものをよく攻撃しますが、オナガは

あえてツミに守られるように営巣します。



5月頃から戸頭団地でよく見られる

ノスリ

止まってる姿が**ずんぐりダルマ型**でクリクリした優しい目をしたタカです。大きさ 52cm の留鳥で、平地から山地の林・農耕地・河川敷・草地などに生息します。冬期の農耕地はノスリの絶好の観察ポイントです。

頭が淡褐色で喉にひげ状の褐色斑があります。飛翔時に羽を広げると翼の角に暗褐色斑が見えます。木の枝・杭・電柱等の見晴らしのよい所に止り、ネズミ・カエル・昆虫を狙います。



9月頃 市之代バス停付近の屋敷林

チュウヒ

両翼をV字にして**低空飛行で飛び回るアシ原の狩人**。大きさ48cmの留鳥で、アシ原・草地・湖沼に生息します。他のタカに比べ翼・尾羽・脚が長めでスマートな体形をしています。羽色は個体差が大きいのですが、全体的に暗褐色で頭部・喉は白っぽい色をしています。



利根川堤の西大木の田園地帯

チョウゲンボウ

^{ていくろ}停空飛翔(ホバリング)が得意なハンター。近年は、市街地や橋梁等に営巣しています。大きさ 33cm の冬鳥(留鳥)で、河川・農耕地に生息します。



農業用水路の鉄塔に止る (オス)



稲刈り後の水田に舞降りる (メス)

オスの頭と尾羽は灰色、メスの頭は茶です。背は雌雄とも茶褐色で、淡黄色の腹には黒い縦斑があります。また、集団営巣(長野県中野市の「十三崖」繁殖地)することで知られています。横斑のある尾は、ハヤブサ類の中で最も長く、翼は細く白い尾の先には黒斑があります。



停空飛翔(ホバリング)後に急降下する

🔍 タカとハヤブサの見分け方

タカ科とハヤブサ科の識別は、飛翔中の翼や尾の形と、帆翔^{はんしょう}(P.3の鳥識④参照)時の翼の状態、腹面の色、大きさか、また停空^{ていくう}飛翔するかしないかで判断します。タカ科は翼の先の羽が1本1本ひろがって見え、ハヤブサ科は翼の先の羽が揃ってとがって見えます。



タカ科 サシバ



タカ科 トビ



タカ科 オオワシ



タカ科 ノスリ



ハヤブサ科 チョウゲンボウ



ハヤブサ科 ハヤブサ

※次回は冬でもみずき野周辺では見られない水辺の鳥ーハクチョウやカモ類、サギ、チドリ等ーを、ちょっと近隣にも足を伸ばして紹介しましょう。 3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三